

＜感謝・お願い＞

昨年は使用済切手(周囲5mm残す)とカード換金で小学生とハイスクール各1名の奨学金(約2万円)をまかなえました。書損じ葉書は切手と交換させていただきました。引続きよろしくお願いします。



2004年1月24日発行

NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会
227-0033 横浜市青葉区鶴志田町516-11
TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933
E-mail: hands-ty@r07.itscom.net
http://www.jca.apc.org/~hands/

地域で経済的に自立できるような支援を

代表 山崎登美子

12月初旬、旧ボール小学校の校舎を利用して実施中の溶接、電気配線、車整備、ホームマネジメント、全4種の技能研修(NIA助成事業)を相田さんと見学しました。就職率90%という具体的目標を掲げたのがよかったのか、定員オーバーのコースもでて、実習では工具が間に合わず、交代で使う場面もありました。

私たちはこれまで、「伝統工芸技術を生かし、森の修復と有機農法による農業を推進して先祖伝来の土地で生きる」という目標を住民、CMBと共有して事業を実施してきました。しかし「先祖伝来の土地で生きる」のゴールは見えてきません。生き延びるために農薬使用のパイナップル契約栽培を選択した住民、技能もなく町に出る青年、性産業に就く少女などが増えています。



以上が就職率の高い職種を選んだこの6ヶ月技能研修(200時間)実施の背景です。しかし、研修の一つホームマネジメントコース受講生(写真:料理と活花の実習)にメイドとして海外就労を希望する者が含まれていることがわかりCMBと議論になりました。

フィリピンは国を挙げて海外就労を推進しています。2002年には経常収入の15.6%が海外就労者(OFW)からの送金でした。2003年は人数では減ったものの、看護師などの専門職のOFWが増加した結果、金額は6%増えたそうです(比中央銀行資料他)。大統領自ら日本に対して介護専門家の受け入れ要請もしました。

国策だとしても、現状を迫認して結果的に青年の海外就労奨励になる事業を実施しているのか、今後とも「地域で自立できる支援」に固執すべきか、皆様のご意見をうかがわせていただきたいと思います。

ヘルスプログラム報告

★ヘルスワーカーと住民みんなでめざす健康な村づくり★

ヘルスワーカーをたくさん養成して村ぐるみで栄養衛生改善をしよう!鍼灸・指圧療法もみんなで覚えよう!という事業の企画書がパササンバオ・総合ヘルスサービス(PIHS)から届きました。

PIHS(旧略称PPHC)は貧しいモロ民族地域で活動している現地NGOで、私たちは平成14年度にこの団体と協力して母と子のコミュニティースクール事業(国際ボランティア貯金寄付金配分)を実施しました。

ミンダナオ先住民族の貧困の主因は土地・森・漁場などの生活基盤喪失で、開発資本による合法的土地奪取は今も続いています。今回の企画は、貧困・医療不在に対して、病院や高い医薬品に頼らず、薬草利用など昔の知恵も活かしたヘルスワーカー主導の健康な村づくりに取り組もうというものです。8地域合計30名のヘルスワーカーの研修やキャンペーン、巡回診療費に対する助成をこの1月、FIDRに申請しました。

★キアミのマラリア対策★

— CMBヘルス担当ジョセリン・トリポリさん(ジョジョ) —

キアミのマラリア患者多発に対処するため、昨年11月に管轄のサラングニ州マラパタン町保健所に行ってきました。この地域のマラリア蔓延は、マラパタン町のバランガイの一つサボ地区に端を発し、キアミのあるキナム・バランガイに広がったものとわかりました。HANDS・CMBヘルスプログラムによりジェネラルサントス公立病院に入院させることができたのは17名。キアミに限れば、昨年1年間でマラリアによる死亡は1名に抑えることができました。



ジョジョ(助産師・G.サントスのCMB本部・医務室で)

保健所の医師Dr.レミタールに予防法を伺いました。水溜りや小川の落ち葉など、蚊が卵を産み付ける場所を減らす清掃作業とか、栄養改善で抵抗力をつけるなどすでに努力してきたことでしたが、一度地域の調査をすとの約束を取り付けました。今キアミでは、HANDS奨学生だったビーナ(助産師コース終了)がヘルスワーカーとして働いています。住民の衛生・医療支援のほか、地域の基礎データ収集も担当します。